



芝山小だより



8、9月号
清瀬市立芝山小学校
校長 寺井 俊敬
<http://www.kiyose.ed.jp/>

味方の反対は

校長 寺井 俊敬

本日より、2学期がスタートし、学校には子供たちの声が戻ってきました。

今年の夏は、暑い日だけでなく、東北地方等で大雨による被害等も報道されていました。また、痛ましい事件、事故等の報道もされていました。お子様たちは、元気に過ごせたでしょうか。まだまだ暑い日が続く、新型コロナウイルス感染症の拡大も心配されますが、熱中症、感染症に気を付けながら、また、様々な事故等に気を付けながら、子供たちの指導を行って参ります。

さて、2学期の大きな行事の一つ、運動会を10月1日(土)に実施する予定です。今月は、各学年とも、運動会に向けて練習が行われます。今年もコロナ禍ということもあって、縮小しながらの運動会となります。しかし、本校では、運動会を含めて、新しい行事、新しい教育活動の在り方を模索中です。

運動会については、昨年度と同様、2学年ごとのまとまりで、競技、演技を行います。(今年は、1・2年、3・4年、5・6年のまとまりで行います。)しかし、学校全体の行事であるということ意識して、所謂、開会式、閉会式のようなく、みんなで集まってのはじめの会、終わりの会を行います。全学年一堂に集まっての競技はできませんが、それぞれの学年ごとに、赤白に分かれて得点を競います。6年生には、運動会の運営を手伝ってもらいます。大きな声は出せませんが、手拍子等で応援団を中心に応援をします。

運動会に向けてのプログラム等のお知らせについては、準備ができ次第お知らせして参ります。

ところで、「味方」の反対は何だと思いますか。辞書では、「味方」の反対は「敵」です。しかし、30年も前の話ですが、私が当時お世話になった先生から、以下のような話を聞きました。

「味方の反対は確かに敵です。しかし、体育や運動会では、味方チームの反対は、敵チームではなく、相手チームです。相手チームがいたから頑張れた、相手チームがいたから勝った喜びを味わえた。相手チームがいたから負けて悔しかったけど次は勝てるように頑張ろう。子供たちには、そんな気持ちでいてほしいと、指導しています。」

私は、この話を聞いて以降、体育の学習等では、子供たちには、いつも上記のようなことを話していました。

もちろん、体育でも運動会でも、勝つことにこだわることは大切です。どの競技のスポーツ選手もはじめから負けてもいいと思って競技を行う選手はいません。むしろ一流の選手ほど、勝つことにこだわります。そして、一流の選手ほど、競技が終わると「自分の技術がまだまだ…」「もっと自分の技術を向上させなければ…」といった気持ちをテレビ等のインタビューで話しています。それでも、一流の選手が、勝負に負けて相手をけなしている姿を見たことがあるでしょうか。むしろ、「相手の選手(チーム)が上手でした。」と相手選手(チーム)の努力をたたえています。私はスポーツ選手ではありませんが、相手を思う気持ちは同じです。

運動会では勝つチーム、負けるチームがあります。勝ったチームは喜ぶことでしょう。負けたチームは悔しい気持ちでいっぱいになるでしょう。それでも、運動会を通して、お互いに相手チームを尊重し合う、相手を思いやる気持ちが生まれてほしいと思います。

子供たちは、運動会に向けて、一生懸命練習に励むことでしょう。友達と協力する大切さを学ぶことでしょう。さらに、6年生は、各係活動で運動会を支えてくれることでしょう。

運動会の練習、運動会を通して様々な力を培い、学校生活に活かし、相手を思いやる子供になってほしいと願っています。教職員一同、子供たちの指導をより丁寧に心を込めて指導して参ります。

2学期以降も感染症対策を講じながら、教育委員会と連携して、できる限りの教育活動を継続して参ります。今学期も、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。